

SDGs未来都市等進捗評価シート

秋田県仙北市

2020年8月

SDGs未来都市計画名

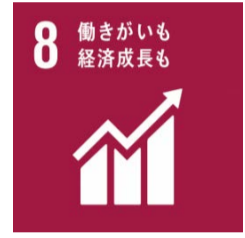



仙北市 SDGs未来都市計画

SDGs未来都市等進捗評価シート

2018年度

1. 全体計画

計画タイトル	秋田県 仙北市 SDGs未来都市計画
2030年のあるべき姿	直面する深刻な人口減少問題等の課題解決を図るため、SDGsの考え方を積極的に活用し、経済、社会、環境の三側面の取組による相乗効果が期待できる施策を実施し、人口縮小の状況にあっても、市民と行政の協働による誇りあるまちづくりを進め、産業が活性化され、市民が生活の豊かさを実感できるようになっている姿を目指す。

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール	経済		社会		環境		
	ゴール8 ターゲット 8.9 ゴール9 ターゲット 9.5	 	ゴール3 ゴール11	ターゲット 3.4 ターゲット 11.3	 	ゴール2 ゴール7 ゴール14	ターゲット 2.4 ターゲット 7.a ターゲット 14.3

優先的なゴール、ターゲットに関するKPI	#	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2030年		進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
	1	[8.9]	観光宿泊者数	2018年3月	514,256 人	2030年	860,000 人
2	[9.5]	近未来技術関連における起業及び事業拡張数	2018年3月	3 件	2030年	30 件（累計）	2019年度実績6件（前年度比-1件。累計19件。）
3	[3.4]	健康寿命	2016年3月	男 76.96歳 女 82.84歳	2030年	男 78.96歳 女 84.61歳	2017年3月31日時点、男77.01歳（前年比+0.05）、女82.21歳（前年比-0.63歳）。
4	[11.3]	人口増減率	2018年3月	-2.08 %	2030年	-1.50 %	2019年3月時点で-2.15%となり、目標値と逆行している。
5	[2.4]	耕作放棄地解消面積	2018年3月	3 ha	2030年	4 ha(累積42ha)	11.98ha（2018.11.30時点）
6	[7.a]	水素生成量	2018年3月	20 ℓ	2030年	100,000 ℓ	2019年度の水素生成量は、50 ℓ。効率的に水素を生成するパイロットプラントの製作を進める。
7	[14.3]	田沢湖のpH	2018年3月	5.4	2030年	6.0	pH5.4（当初値を維持）

行政体内部の推進体制	自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題	有識者からの取組に対する評価
<p>■各種計画への反映状況や課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30.11.24「仙北市SDGs未来都市宣言」に、総合計画に掲げる将来像を明記。 ・H31.3月、SDGs未来都市計画とも相互補完する位置付けで「仙北市地域新エネルギービジョン改定版」を策定。今後、ビジョンに沿ってエネルギー活用のあり方を検討し、持続可能なまちづくりを進めていく。 ・R2.9月現在、第2次仙北市総合計画の基本計画（後期）および総合戦略の改訂作業中。後期の計画期間は令和3年度～令和8年度の5か年。SDGsの理念に基づく施策を計画および戦略に反映させる方針。 <p>■行政体内部の執行体制及び首長のリーダーシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> H30.4.17市長を本部長、各部長等を本部長として、仙北市SDGs推進本部を設置。 同年5月および9月に本部会議を開催。 同年6月以降、各課の代表者でワーキンググループを組織し、3回のワーキンググループ会議を開催。 R1.5.20、仙北市SDGs推進本部会議を開催。 同年9月、第1回ワーキンググループ会議を開催。 R2.6.29、仙北市SDGs推進本部会議を開催。 同年7.30、第1回ワーキンググループ会議を開催。 	<p>■シンポジウムの開催・参加</p> <ul style="list-style-type: none"> H30.11.24 仙北市SDGs未来都市宣言ミニシンポジウム開催 H31.1.25 東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム in 東松島市に参加 R1.6.29 仙北市SDGs・ユニバーサルシンポジウムを開催 R1.10.17 東松島市SDGsシンポジウムに参加 R2.1.16 東北SDGs未来都市サミット・シンポジウムin仙北市開催 東北SDGs未来都市サミット・シンポジウムin飯豊町に参加予定（開催延期） <p>■その他の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙北市SDGs未来都市普及啓発ポスターを作成し、市内各所へ掲示。 ・職員によるSDGsピンバッジの購入。 ・庁舎内の各課名プレートへ17のアイコンシールを貼付。 ・大漁旗プロジェクトへの参加。（東京大学 生産技術研究所主催） ・広報誌の各種記事にSDGsアイコンを付与。 ・R2.1.16 東北SDGs未来都市サミット・シンポジウムin仙北市にて実施した「気候非常事態宣言」が世界事務所のウェブサイトに掲載。https://www.cedamia.org/ced-regions-in-japan/ 	<p>■スマートシティ等、官民連携の取組が進められている点が評価できる。エネルギー、IoT技術と観光交流が一体的に街づくりに貢献する仕組みの検討提示を期待する。</p> <p>■農業IoTについては、記載内容だけでは進捗の判断が難しく、より詳細な説明が望まれる（具体的には、どのような作物に対して、どのような効果を目的として機器導入を実施したのか、導入後のフォローアップはどのようにされているのか等）。</p> <p>■今後しばらくの間は、コロナの影響で観光客等が減少する事は避けられないため、それを踏まえた計画の修正も検討する必要がある。</p>

1. 全体計画

ステークホルダーとの連携	地方創生・地域活性化への貢献	
<p>【域内の連携】</p> <p>■住民 コロナ禍で活動が制限される中、市の広報でSDGs特集（各目標アイコンと身近な取り組み例の紹介、SDGsに取り組まれている方の活動紹介）を掲載し、市民向け周知活動を行っているほか、地域自治組織、総合政策審議会、産業振興推進委員会等の審議会との連携を進めていく。</p> <p>■企業・金融機関 市内金融機関や市内外の民間企業と連携し、取組を進める。また、スーパーシティの実現およびスマートシティモデル事業の実施における企業との連携も活かし、持続可能なまちづくりを目指す。</p> <p>■教育・研究機関 低炭素社会の実現に向けた水素エネルギー利用の取組は、東北大学大学院や県外企業と連携しながら進めていく。</p> <p>■NPO等の団体 「近未来技術を活用した新たな産業づくり支援協議会」の構成員の一部を含む新たな協同体を発足し、近未来技術による持続可能なまちづくりを加速化。 ・仙北市スマートシティ推進コンソーシアム（R1.7.31～） ・仙北市近未来技術地域実装協議会（R1.10.8～）</p> <p>【自治体間の連携（国内）】</p> <p>■大仙市、美郷町 H31.4月より、廃棄物処理の広域化に伴い、市の環境事業は、大曲仙北広域市町村圏組合に統合。2市1町連携で4Rに取り組んでいく。介護保険事業については、広域連携の中で更にSDGs推進を呼びかけていく必要がある。</p> <p>■秋田県 近未来技術に係るSDGs推進に関しては、仙北市近未来技術地域実装協議会（R1.10.8～）の構成員として、県の関係各課より参画を得ている。未来技術の社会実装に向けて協議を継続する。</p> <p>【国際的な連携】</p> <p>■湖沼関係者 第17回世界湖沼会議（H30.10.15～19）へ出席し、田沢湖の環境修復に関する取組について講演。</p> <p>■台湾 コロナ前までは、仙北市の外国人観光客数は年々増加傾向にあり、特に台湾人観光客は全体の40%以上を占めていた。コロナの影響で観光客数は激減したものの、R2.6月、温泉提携協定を結ぶ台北市の協会から、大量のマスクが寄贈されるなど、今後も更なる国際連携が期待できる。</p>	<p>■地方創生推進交付金を活用した各種事業の推進 農業分野において、生産性の向上、耕作放棄地解消、担い手不足、超高齢社会といった課題に対応すべく、センサー・通信技術の実証実験やドローンによる水稲生育調査や農作物の輸送実証実験を実施。IoT導入による農業生産性の向上や省力化等、得られた成果を市民向け研修会で報告し、情報提供を行った。 また、玉川温泉水からの水素生成について、2019年度は、台風等の影響により、水素生成実験の十分な時間を確保することができなかったが、水素パイロットプラントの製作を進め、水素の地産地活の先進地として地位確立を目指していく。</p>	

SDGs未来都市等進捗評価シート

2018年度

1. 全体計画

自治体SDGsの 推進に資する 取組の 2020年のKPI	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2019年度	2020年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)
	① 近未来技術による夢のあるまちづくり	4.4	小学校でのドローンによるロボットプログラミング学習導入率	2017年度 43 %	2019年度 100 %	2020年 100 %	100%	2019年度は市内小学校でプログラミング学習の試験導入。2020年度は6年生のプログラミング学習を必須とする計画である。
	① 近未来技術による夢のあるまちづくり	8.3 9.2	近未来技術関連における起業及び事業拡張数	2017年度 3 件	2019年度 19 件	2020年 11 件	200%	2019年度は、事業創造及び事業拡張を目的とした研修会を2回実施し、参加者は計29名。その後のフォローとして個別相談会を計4回実施し、相談件数は9件となった。一定の成果はみられたが、定期的なフォローアップを行う体制整備が課題である。
	② 「温泉×健康」による持続可能なまちづくり	3.4	温泉利用者数	2017年度 789,000 人	2019年度 758,740 人	2020年 839,000 人	-61%	2019年度に健康増進ガイド「温さんぼMAP」を多言語化（英語・中国語【繁体字・簡体字】）、市内の各観光・宿泊施設に配布。また、中国・深圳で開催された国際旅行博にてプロモーション事業を実施し、旅行商品の造成に至るなどの成果はあったが、コロナの影響で前年比マイナスとなった。
	② 「温泉×健康」による持続可能なまちづくり	9.2	観光宿泊者数	2017年度 514,256 人	2019年度 504,967 人	2020年 622,000 人	-9%	コロナ禍での観光戦略やアフターコロナを見据えた出口戦略が今後の課題である。
	③ 田沢湖再生の加速化	14.3 15.1	環境教育での田沢湖クニマス未来館への来館者数	2017年度 599 人	2019年度 1173 人	2020年 800 人	286%	2020年7月には、田沢湖クニマス未来館への来館者数（環境教育での来館者数を含む）が6万人を突破。目標を大幅に更新している。
	④ 農業IoTの導入による農業生産性の向上と耕作放棄地の削減	2.4	生産性向上に資する農業IoT営農面積	2017年度 1 ha	2019年度 150.729 ha	2020年 11 ha	1497%	農業ドローンの購入補助および免許取得補助金を交付し、導入を促進。目標を大幅に更新している。
	④ 農業IoTの導入による農業生産性の向上と耕作放棄地の削減	9.2	農業分野でのIoT技術導入件数	2017年度 2 件	2019年度 16 件	2020年 9 件	200%	農業経営体で温度センサーやドローン等のIoT機器を導入。また、農業ドローンの購入補助金交付件数4件。
⑤ 水素エネルギーの活用による産業振興	7.a 13.1	玉川温泉水からの水素生成量	2017年度 20 ℓ	2019年度 50 ℓ	2020年 1,000 ℓ	3%	2020年11月中旬まで水素生成実験を実施。また、水素生成パイロットプラントの設計業務も同時並行で進めていく。	